

StorageWorks by Compaqネットワーク ストレージ ルータN1200

インストール ガイド

製品番号 283394-192

2002年4月 (第2版)

製品バージョン: 1.0

*StorageWorks*TMネットワーク ストレージ ルータN1200は、ファイバ チャンネル スイッチ ファブリック (FC-SW) 環境またはファイバ チャンネル アービトレーテッド ループ (FC-AL) 環境で、Narrow/Wide Fast/Ultra-2 SCSIバスの双方向の接続性を提供します。

このインストール ガイドでは、ルータのインストール手順と設定手順について説明します。

COMPAQ

© 2002 Compaq Information Technologies Group, L.P.
© 2002 コンパックコンピュータ株式会社

Compaq、CompaqロゴおよびStorageWorksは、Compaq Information Technologies Group, L.P.の商標です。

MicrosoftおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

本書に掲載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。本書の内容は、そのままの状態を提供されるもので、いかなる保証も含みません。本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。コンパック製品に対する保証については、当該製品に付属の限定保証書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。

本製品は、日本国内で使用するための仕様になっており、日本国外で使用される場合は、仕様の変更を必要とすることがあります。

本書に掲載されている製品情報には、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。

StorageWorks by Compaqネットワーク ストレージ ルータN1200インストール ガイド

2002年4月（第2版）
製品番号 283394-192

目次

このガイドについて

対象読者	vii
安全に使用していただくために	vii
装置の記号	vii
ラックに関する注意	ix
本文中の記号	ix
表記上の規則	x
参考資料	x
コンパックのWebサイト	x

第1章

はじめに

外部機能の概要	1-2
電源インジケータ	1-3
ファイバチャネルポート	1-3
SCSIバス	1-3
Ethernetポート	1-4
シリアルポート	1-4

第2章

インストール

設置場所の選択.....	2-2
開梱.....	2-2
ルータのデスクトップへの設置.....	2-2
ルータのラックへの設置.....	2-3

第3章

接続

電源コードの接続.....	3-2
インタフェースの接続.....	3-3
ファイバチャネル接続.....	3-4
SCSI接続.....	3-6
Ethernet接続.....	3-7
シリアルポート接続.....	3-8
シリアルポート通信の設定.....	3-9

付録A

静電気対策

アースの方法.....	A-2
-------------	-----

付録B

規定に関するご注意

規定準拠識別番号.....	B-1
各国別勧告.....	B-1
Federal Communications Commission Notice.....	B-2
Canadian Notice (Avis Canadien).....	B-4
Mouse Compliance Statement.....	B-5
European Union Notice.....	B-5
Taiwanese Notice.....	B-5

レーザー装置.....	B-6
レーザーの安全に関するご注意.....	B-6
CDRH規定.....	B-6
国際規定.....	B-6
レーザー製品ラベル.....	B-7
レーザー部.....	B-7

索引

図

1-1: ルータの図.....	1-2
2-1: 内側レールと外側レールの取り外し.....	2-4
2-2: ブラケットの取り付け面とラックを揃える.....	2-5
2-3: ルータへの内側レールの取り付け.....	2-6
2-4: ラックへのルータの設置.....	2-7
2-5: ラックへのベゼル ブランクの取り付け.....	2-8
3-1: 電源コネクタ.....	3-2
3-2: 背面のポートの位置.....	3-3
3-3: WWN/MAC IDラベル.....	3-4
3-4: アービトレーテッド（またはプライベート）ループを使用した テープライブラリが存在する構成.....	3-5

このガイドについて

このガイドでは、StorageWorks™ネットワーク ストレージ ルータN1200のインストールおよび接続手順について説明します。

対象読者

このガイドは、ネットワーク環境について中級程度の知識を持つ管理者を対象としています。

安全に使用していただくために

同梱の『安全に使用していただくために』をよく読んでから、製品のインストールを開始してください。

装置の記号

安全上の注意が必要な装置の各部には、以下の記号が表示されています。



警告: 以下の記号と組み合わせて使用され、危険があることを示します。警告事項に従わないと、けがをする場合があります。詳しくは、ご使用のマニュアルを参照してください。



装置に高電圧が発生する回路があることや、装置の表面または内部部品に触れると感電の危険があることを示します。修理はすべて、資格のある担当者に依頼してください。

警告: 感電を防止するために、カバーを開けないようにしてください。メンテナンス、アップグレード、および修理はすべて、資格のある担当者に依頼してください。



装置の表面または内部部品に触れると感電の危険があることを示します。カバー内には、ユーザや使用現場の担当者が修理できる部品は入っていません。カバーは、絶対に開けないでください。

警告: 感電を防止するために、カバーを開けないようにしてください。



これらの記号が貼付されたRJ-45ソケットはネットワーク インタフェース接続を示します。

警告: 感電、火災または装置の損傷を防止するために、電話または電気通信用のコネクタをこのソケットに接続しないようにしてください。



装置の表面または内部部品の温度が非常に高くなる可能性があることを示します。この表面に手を触れるとやけどをする場合があります。

警告: 表面が熱くなっているため、やけどをしないように、システムの内部部品が十分に冷めてから手を触れてください。



電源やシステムにこれらの記号が付いている場合、装置の電源が複数あることを示します。

警告: 感電しないように、電源コードをすべて抜き取ってシステムの電源を完全に切ってください。



製品や機械にこの記号が付いている場合、1人で安全に取り扱うことができる重量を超えていることを示します。

重量 (kg)
重量 (lb)

警告: けがや装置の損傷を防ぐために、ご使用の地域で定められた重量のある装置の安全な取り扱いに関する規定に従ってください。

ラックに関する注意



警告: けがや装置の損傷を防止するために、次の点に注意してください。

- ラックの水平脚を床まで延ばしてください。
 - ラックの全重量が水平脚にかかるようにしてください。
 - 1つのラックだけを設置する場合は、ラックに固定脚を取り付けてください。
 - 複数のラックを設置する場合は、ラックを連結してください。
 - コンポーネントは一度に1つずつ引き出してください。一度に複数のコンポーネントを引き出すと、ラックが不安定になる場合があります。
-

本文中の記号

本文中の以下の記号の意味を示します。



警告: その指示に従わないと、人体への傷害や生命の危険を引き起こす恐れがある警告事項を表します。



注意: その指示に従わないと、装置の損傷やデータの消失を引き起こす恐れがある注意事項を表します。

重要: 詳しい説明や具体的な手順を示します。

注: 解説、補足または役に立つ情報を示します。

表記上の規則

このガイドでは、以下の表記規則を採用しています。

- イタリック体は、変数を示します。変数には、本文中のさまざまなシステム出力、コマンドライン、コマンドパラメータに関する情報が含まれます。
- **太字**は、強調すべき画面上のインタフェースコンポーネント（ウィンドウのタイトル、メニュー名およびメニューオプション、ボタン名およびアイコン名など）と、キーボードのキーを示します。
- Monospaceフォントは、コマンドライン、コード例、画面表示、エラーメッセージ、およびユーザ入力を示します。
- URLは、Arialフォントで表記します。

参考資料

このガイドで説明する項目について詳しくは、以下の資料を参照してください。

- 『Fibre Channel Physical and Signaling Interface (FC-PH)』 (ANSI X3T9.3/Project 755D/Rev. 4.3) (お問い合わせ先: 米国Global Engineering Documents、1-800-854-7179)
- 『Fibre Channel Protocol for SCSI (FCP)』 (Revision 12)
- 『Fibre Channel Private Loop Direct Attach (FC-PLDA)』
- 『Fibre Channel Arbitrated Loop (FC-AL)』 (ANSI X3T11/Project 960D/Revision 4.54) (お問い合わせ先: 米国Global Engineering Documents、1-800-854-7179)
- 『Gigabit Interface Converter (GBIC)』 (Small Form Factor、SFF-8053、Revision 5.X)
- 『Common FC-PH Feature Sets Profiles』 (Fibre Channel Systems Initiative、FCSI-101 Revision 3.1)
- 『SCSI Profile』 (Fibre Channel System Initiative、FCSI-201-Revision 2.2)
- 『FCSI IP Profile』 (Fibre Channel System Initiative、FCSI-202-Revision 2.1)

コンパックのWebサイト

コンパックのWebサイトでは、最新のドライバやフラッシュROMに関する製品情報を提供しています。コンパックのWebサイト (<http://www.compaq.co.jp/>または<http://www.compaq.com/>) にアクセスするには、インターネットにログオンする必要があります。

はじめに

StorageWorksネットワーク ストレージ ルータN1200は、ファイバ チャンネル スイッチ ファブリック (FC-SW) 環境またはファイバ チャンネル アービトレーテッド ループ (FC-AL) 環境で、Narrow/Wide Fast/Ultra-2 SCSIバスの双方向の接続性を提供します。

この章では、以下の項目について説明します。

- 外部機能の概要
 - ファイバ チャンネル ポート
 - SCSIバス
 - Ethernetポート
 - シリアル ポート

外部機能の概要

図1-1に、ルータのI/Oパネルを示します。

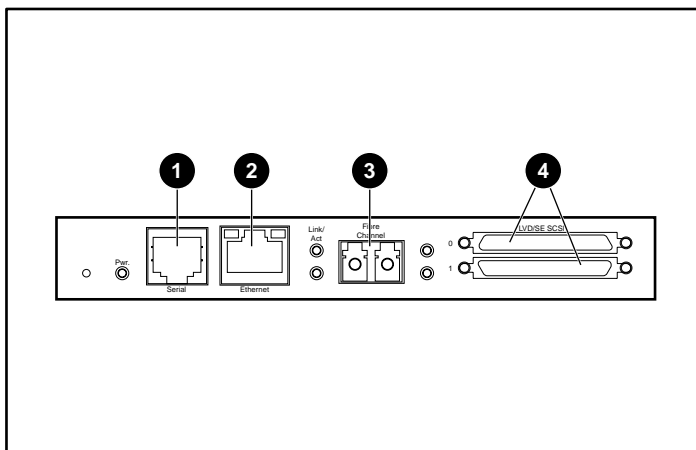


図1-1: ルータの図

表1-1: 外部機能

番号	I/Oポート
①	シリアル
②	Ethernet
③	ファイバチャネル
④	SCSI

電源インジケータ

ルータの背面には、1個の電源LEDがあります。

電源インジケータのLEDの定義

緑色 - パワー モジュールの電源が入っています。

黄色 - 電源投入時セルフテスト (POST) の実行中かプロセッサに障害が発生しています。

ファイバ チャネル ポート

ルータには、LEDインジケータ付きの1個のファイバ チャネル ポートが装備されています。ファイバ チャネル ポートの位置については、図1-1を参照してください。

ファイバ チャネル ポートのLEDの定義

緑色 (動作) - ファイバ チャネル ポートの動作を示します。

緑色 (リンク) - 有効なファイバ チャネル リンクを示します。

SCSIバス

ルータには、LEDインジケータ付きの2個のSCSIバスが装備されています。SCSIバスの位置については、図1-1を参照してください。

SCSIバスのLEDの定義

緑色 - 対応するポートのSCSIバスの動作を示します。

Ethernetポート

ルータには、LEDインジケータ付きの1個のEthernetポートが装備されています。Ethernetポートの位置については、図1-1を参照してください。

EthernetポートのLEDの定義

動作 - ポートの動作を示します。

リンク - 有効なEthernetリンクを示します。

シリアルポート

ルータには、1個のシリアルポートが装備されています。シリアルポートの位置については、図1-1を参照してください。シリアルポートを使用してシリアル/Telnetユーザ インタフェースにアクセスすると、ルータをローカル管理したり、ローカル設定することができます。

2

インストール

この章では、StorageWorksネットワーク ストレージ ルータN1200を開梱し、インストールする方法について説明します。ルータは、デスクトップまたはラック構成で設置できます。

注: ルータを設定する前に、必ず、この章および「3 接続」をお読みください。

この章では、以下の項目について説明します。

- 設置場所の選択
- 開梱
- ルータのデスクトップへの設置
- ルータのラックへの設置



注意: 静電気放電による装置の損傷を防止するために、ルータやそのコンポーネントを開梱したり、移動するときは、業界の標準手順に従ってください。詳しくは、「A 静電気対策」を参照してください。

設置場所の選択

ルータは、デスクトップに設置したり、標準19インチ ラックに設置したりすることができます。ルータの設置場所を決めるときは、ルータの前面と背面の通気口をふさいでいないことを確認してください。

開梱

ルータを開梱するには、以下の手順に従ってください。

1. 輸送用ボックスから、すべての品目を取り出します。品目が損傷していないか、チェックします。インストールするまで、ルータを保護用バッグに入れておきます。
2. 送り状や内容明細書を参照して、すべての品目がそろっていることを確認します。品目がそろっていない場合は、ただちにお求めになった販売店に連絡してください。

ルータのデスクトップへの設置

ルータをデスクトップに設置するには、以下の手順に従ってください。

1. 保護用バッグから、ルータを取り出します。



注意: 直射日光、液体、水蒸気、過度の熱を避け、不慮の落下や損傷の危険がない滑らかな面に、ルータを置いてください。

2. ユニット底面の四隅に、貼付式の脚を取り付けます。
3. ルータをテーブルやデスクに載せ、両側の通気口をふさいでいないことを確認します。

ルータのラックへの設置

ルータをラックに設置する場合、ルータ キットに入っている以下の品目を使用します。

- マウンティング レール
- 延長ブラケット
- ラックマウント用ハードウェア部品（#10-32 × .6プラス ネジ × 8、#6-32 × .312プラス ネジ × 8）が入っている袋
- コンバック製ベゼル ブランク

注: インストール作業では、#2プラス ドライバと#2マイナス ドライバが必要です。

ルータをラックにインストールするには、以下の手順に従ってください。

1. 保護用バッグから、ルータを取り出します。



注意: 直射日光、液体、水蒸気、過度の熱を避け、不慮の落下や損傷の危険がない滑らかな面に、ルータを置いてください。

2. ルータを設置する場所を決め、両側の通気口をふさいでいないことを確認します。
3. 外側レール アセンブリから、内側レールを外します。

図2-1を参照してください。

- a. 内側レールの前面側にある円形の穴に指を通します。
- b. 外側レール アセンブリから、内側レールをロックするまで引き出します。
- c. 内側レールの裏側にあるバネ式ラッチを押して、ロックを解除します。バネ式ラッチを押しながら、レールが外れるまで内側レールを引き出します。

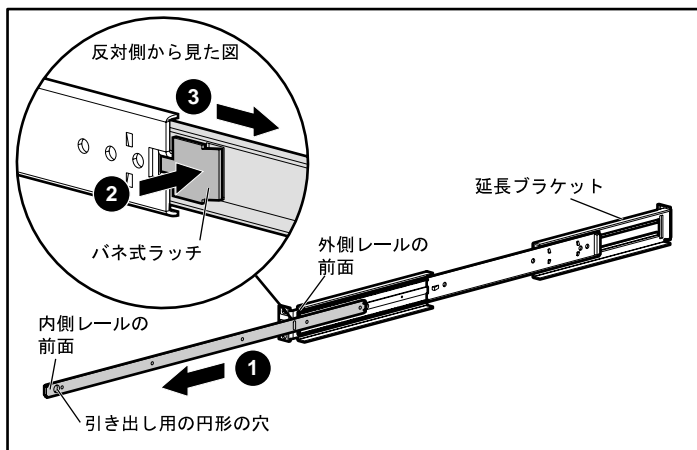


図2-1: 内側レールと外側レールの取り外し

- d. 他のレールについて、手順3を繰り返します。
4. 各外側レール アセンブリの前面と背面をラックに取り付けます。
 - a. ルータを設置するラックの位置を決定します。

注: ルータとレール アセンブリのサイズは、1Uです。

- b. 外側レール アセンブリの前面にある3つのネジ穴を、ラックの前面にある対応するネジ穴に揃えます。

3つのネジ穴をすべて正確に揃えてください。ネジ穴がすべて正確に揃っていないと、外側レール アセンブリはラックに正しく取り付けられません。ラックの前面でネジ穴を揃える例については、図2-2を参照してください。

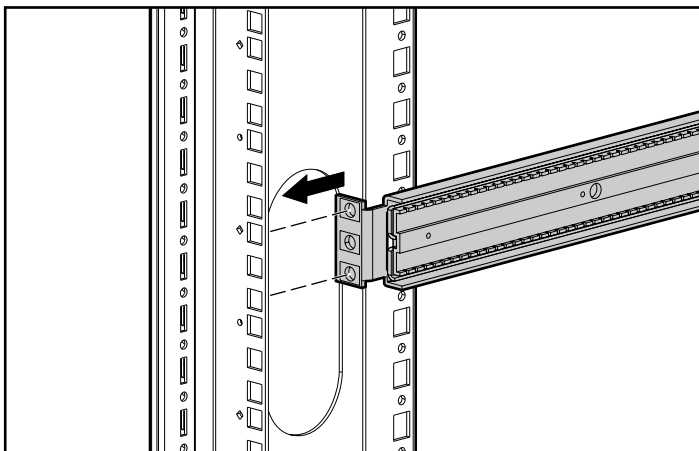


図2-2: ブラケットの取り付け面とラックを揃える

- c. 外側レール アセンブリの取り付け面とラック前面の取付け穴の内側をぴったりと合わせて、ブラケットの取り付け面の上下にネジを挿入し、締めます。10-32 x .6プラスネジ2本を使用します。

ブラケット取り付け面の中央にある穴には、ネジを挿入しないでください。この穴は、ラックにフロントベゼルブランクを取り付けるときに使用します。

- d. 外側レールアセンブリの背面側延長ブラケットに付いているマイナスネジを緩めます。
- e. 外側レールアセンブリを水平に支えながら、ラックの背面内側に背面側延長ブラケットを引き出します。



警告: けがや装置の損傷を防止するために、レールは水平に支えてください。レールが水平になっていないと、ルータを正しくインストールできず、落下する場合があります。

- f. 10-32 x .6プラスネジ2本を使用して、ラックの背面に背面側延長ブラケットの取り付け面を取り付けます。
- g. 外側レールアセンブリを支えながら、背面側延長ブラケットと外側レールをつなぐマイナスネジを締めます。
- h. 他の外側レールアセンブリについて、手順4を繰り返してラックの反対側に取り付けます。

5. ルータの両側面に、内側レールを取り付けます。

図2-3を参照してください。

- a. バネ式ラッチが外側になり、引き出し用の円形の穴がルータの前面側になるようにして、ルータの最も前面側のネジ穴をレールの中央にあるネジ穴に揃えます。

注: 図2-3に示すように、ルータの前面側には通気口があります。ルータの背面側にはすべてのインターコネクトがあります。

このとき、2個のネジ穴が揃い、レールがルータの前面から約20.3cm外に延びています。

- b. #6-32 x .312プラス ネジ2本を使用して、レールをルータに固定します。

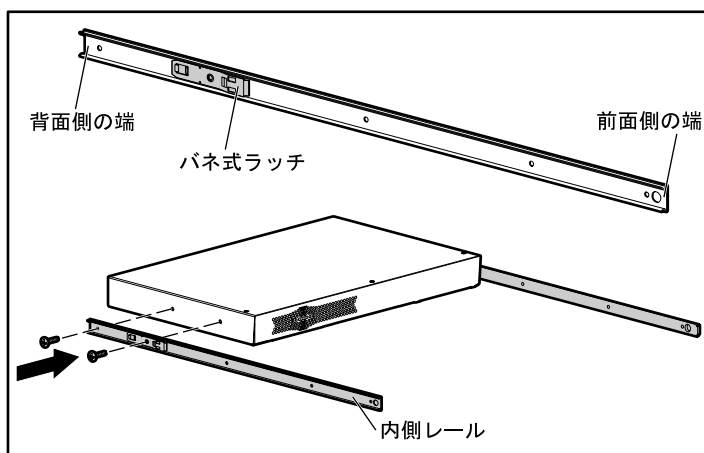


図2-3: ルータへの内側レールの取り付け

- c. ルータの反対側について、手順5を繰り返して内側レールを取り付けます。
6. ラックにルータを設置します。

図2-4を参照してください。

- a. 各外側レールのボールベアリング付きスライドを、ラックの前面側へ移動します。
- b. ルータの前面が外を向いている状態で、ラックの前面から、内側レールと外側レールを揃え、内側レールをスライドさせて外側レールに挿入します。

- c. レールがロックされたら、各内側レールのバネ式ラッチを押して、残りの部分を押し込みます。

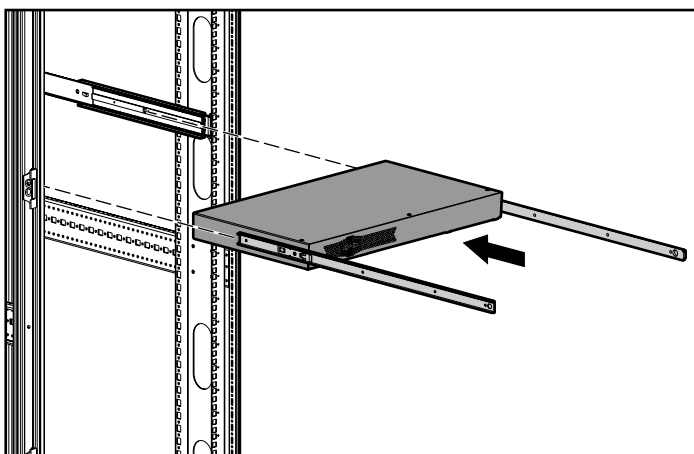


図2-4: ラックへのルータの設置

7. ラックの前面に、コンパクト製ベゼル ブランクを取り付けます。

図2-5を参照してください。

- a. ラックに取り付けられているブラケットの取り付け面の中央にある未使用の穴に、ベゼル ブランクを揃えます。
- b. つまみネジを使用して、ラックにベゼル ブランクを取り付けます。

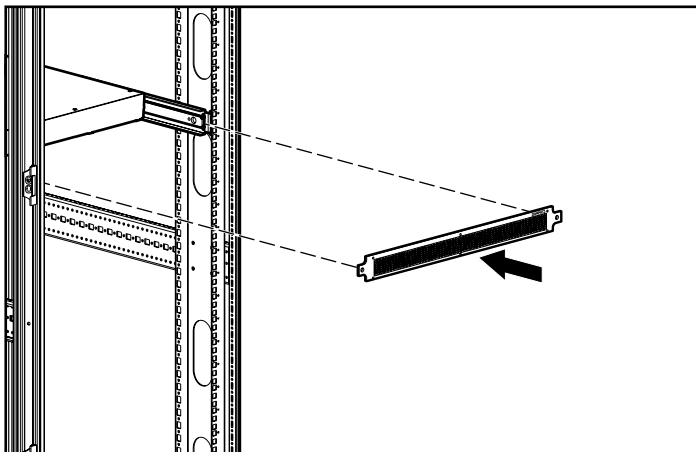


図2-5: ラックへのベゼル ブランクの取り付け

この章では、StorageWorksネットワーク ストレージ ルータを接続する方法について説明します。ルータは、デスクトップまたはラック構成で設置できます。

注: ルータを設定する前に、必ず、この章および「2 インストール」をお読みください。

この章では、以下の項目について説明します。

- 電源コードの接続
- インタフェースの接続
 - ファイバ チャンネル接続
 - SCSI接続
 - Ethernet接続
 - シリアル ポート接続
- Autobaudの設定
- シリアル ポート通信の設定

電源コードの接続

内蔵パワー サプライは、100～240VAC（自動検知）をサポートしています。

ルータに電源コードを接続するには、以下の手順に従ってください。

1. ルータの背面にある電源コネクタに、電源コードを接続します。
2. アース付き電源コンセントに、電源コードを接続します。

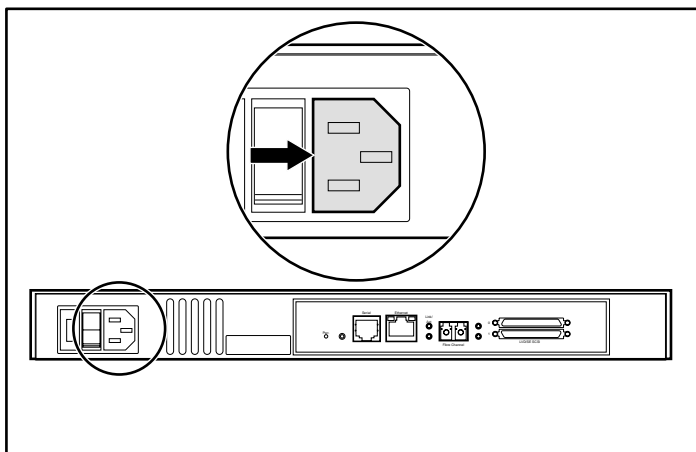


図3-1: 電源コネクタ



警告: 感電や装置の損傷を防止するために、以下の点に注意してください。

- 電源コードのアース付きプラグは無効にしないでください。アース付きプラグは、安全上重要な機能です。
 - 電源コードは、いつでも簡単に手が届くところにあるアース付き電源コンセントに差し込んでください。
 - ルータの電源を切るには、電源コードを電源コンセントまたはルータから抜き取ってください。
-

インタフェースの接続

ルータには、4種類の接続インタフェースがあります。

- ファイバチャネル接続
- SCSI接続（LVD/SE）
- Ethernet接続
- シリアルポート接続

図3-2に、ルータのポートの位置を示します。

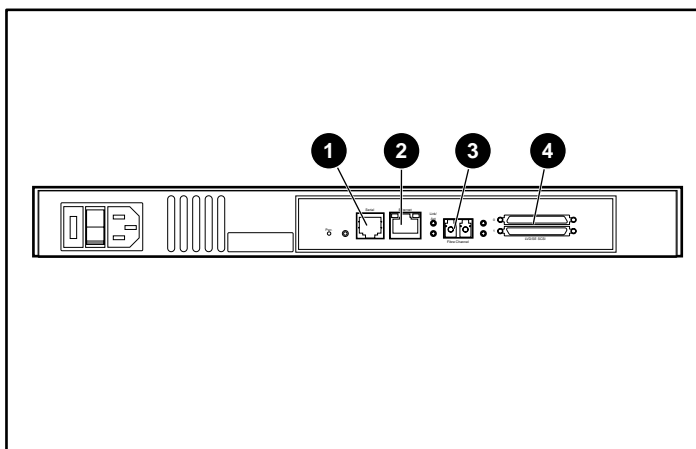


図3-2: 背面のポートの位置

表3-1: ポートの位置

番号	ポートの種類
①	シリアル
②	Ethernet
③	ファイバチャネル
④	SCSI

ルータの底面に、ポートの設定に便利なキー情報を記載したラベルが貼付されています。

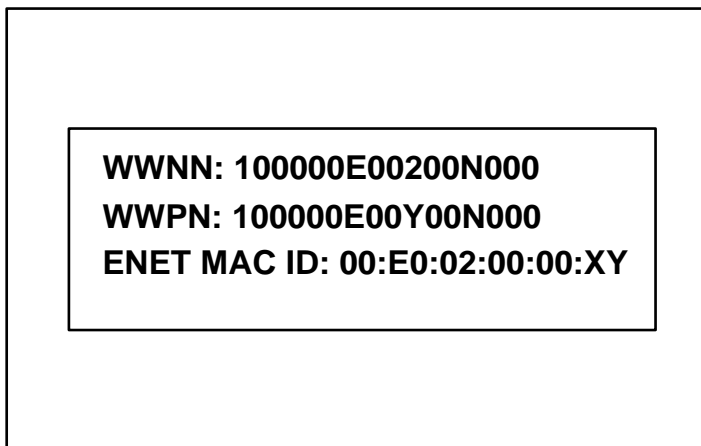


図3-3: WWN/MAC IDラベル

ファイバ チャンネル接続

一般的なインストールでは、ルータを以下に接続できます。

- アービトレーテッド ループ (AL) - ポイント ツー ポイント構成では、ルータは、ファイバ チャンネル ホスト アダプタに直接接続できます。
- プライベート ループ (ハブ)
- パブリック ループ (スイッチに接続されているハブ)
- ファブリック環境 (スイッチ)

注: ルータを他のファイバ チャンネル デバイスと接続する前に、ルータを接続する環境の構成要件を理解することが重要です。ファイバ チャンネル デバイスを正しく設定しないと、接続しているストレージ ネットワークの動作が妨害される場合があります。

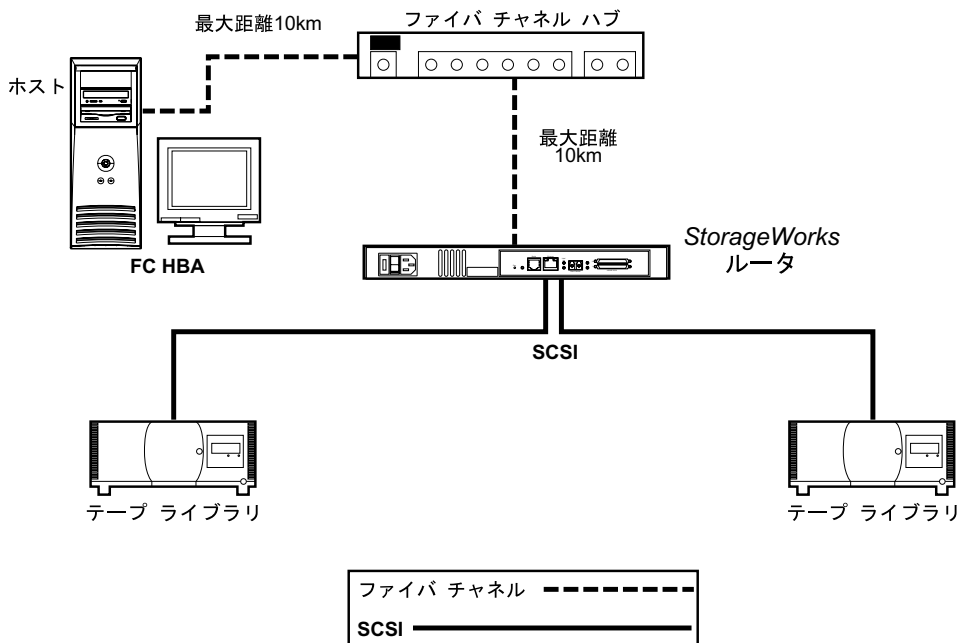


図3-4: アービトレーテッド (またはプライベート) ループを使用したテープライブラリが存在する構成

ファイバ チャンネル スイッチおよびハブは、異なるメディア タイプ用に個々のポートを設定できます。ルータは、使用しているメディア タイプに適したファイバ チャンネル ケーブルで、ハブまたはスイッチ ポートに接続する必要があります。

ルータは、外付SFP (Small Form Factor Pluggable) を使用して、各種のファイバ チャンネル メディア タイプをサポートしています。

使用できるメディア タイプは、2.125Gb (ギガビット) デュアルSCコネクタを使用し、以下を含みます。

- マルチ モード ファイバ サポート
- シングル モード ファイバ サポート

ファイバチャネルストレージエリアネットワーク（SAN）にルータを接続するには、以下の手順に従ってください。

1. ルータの背面にあるファイバチャネルポートを見つけます。ルータの背面にあるファイバチャネルポートの位置については、図3-2を参照してください。
2. SFPから、ゴム製の保護材を外します。
3. ルータの電源を切り、適切なケーブルを使用して、ファイバチャネル環境にルータを接続します。ルータのファイバチャネル光コネクタには、正しい向きに取り付けられるようにキーがついています。



注意: ルータは、特定のSFPで認定されています。コンパックが認定していないSFPを使用すると、ルータが正常に動作しない場合があります。詳しくは、「B 規定に関するご注意」の「レーザの安全に関するご注意」の項を参照してください。

SCSI接続

ルータは、Fast/Ultra-2 Narrow/Wide SCSIをサポートしています。出荷時の設定では、LVD/シングルエンドのSCSIバスをサポートしています。最大2つのSCSIバスを接続できます。

注: ルータは、常にSCSIバスの末端にインストールする必要があります。

ルータは、各SCSIバスにターミネーション電源（TERMPWR）を供給します。

注: 特定の障害中、ターミネーション電源ICが停止します。障害を解決すると、ターミネーション電源ICを再起動できます。



注意: 高密度SCSIケーブルを接続するときは、高密度SCSIポートのコネクタの向きに注意してください。コネクタの向きが正しくないと、コネクタが損傷する場合があります。



注意: LVD/SE接続には、正しいI/Oモジュールを使用する必要があります。正しいI/Oモジュールを使用しないと、装置が損傷する場合があります。



注意: 高密度ケーブルの最小仕様に従わないと、ルータが損傷したり、正常に動作しなくなる場合があります。

注: ルータで使用するSCSIケーブルは、SCSI 2規格に準拠している必要があります。オプションのSCSIケーブルは、お求めの販売店から入手できます。

ルータにSCSIデバイスを接続するには、以下の手順に従ってください。

1. ルータとSCSIデバイスの電源を切ります。
2. SCSIバスを見つけます。ルータの背面にあるSCSIバスの位置については、図3-2を参照してください。
3. ルータのいずれかのSCSIバスに、SCSIケーブルを接続します。

注: ルータは、常にSCSIバスの末端にインストールする必要があります。

注: SEは、SCSI-3プロトコルではサポートされていません。同じバスにSEデバイスとLVDデバイスを組み合わせて接続できますが、バスの性能が大幅に低下します。

4. SCSIデバイスにSCSIケーブルを接続します。
5. バスが正しく終端されていることを確認します。デフォルトで、ルータは自動的に終端されます。ただし、バスのもう一方の端のデバイスも終端する必要があります。
6. 接続したすべてのSCSIデバイスの電源を入れます。
7. すべてのSCSIデバイスのPOST（電源投入時セルフテスト）プロセスが完了したら、ルータの電源を入れます。

Ethernet接続

10/100BASE-T Ethernet接続を使用すると、管理機能と設定機能が強化されます。ルータのRJ-45コネクタは、標準の10/100BASE-T Ethernetネットワークに直接接続できます。

このポートから設定機能を使用するには、IPネットワーク アドレスを設定する必要があります。IPネットワーク アドレスは、手動で割り当てたり、DHCPを使用して動的に割り当てることができます。IPネットワーク アドレスの設定について詳しくは、『StorageWorks by Compaqネットワーク ストレージルータ ユーザガイド』を参照してください。

注: ルータには出荷時に、固有のEthernet MACアドレスが割り当てられています。

Ethernetインタフェースには、Telnet、SNMP、およびFTPと、StorageWorks Visual Manager™ (VM) と呼ばれるHTTPインタフェースがあります。ルータ管理について詳しくは、『StorageWorks by Compaqネットワークストレージルータユーザガイド』を参照してください。

シリアル ポート接続

RJ-11コネクタが、EIA 562規格に準拠し、RS-232信号レベルに適合するシリアル ポートを提供します。シリアル接続は、ユニットの設定、診断ステータスの監視、またはルータ ファームウェアの更新に使用できます。

ルータの背面にあるシリアル ポートの位置については、図3-2を参照してください。

シリアル ポートは、以下のように設定できます。

表3-2: シリアル ポートの設定

ボー レート	Autobaud、9600、19200、38400、57600、または115200 ボー レートを115200に設定することをおすすめします
データ ビット	8
ストップ ビット	1
パリティ	なし
フロー制御	なし、またはXON/XOF

シリアルポート通信の設定

シリアルポート通信を設定するには、以下の手順に従ってください。

1. ホスト コンピュータのシリアルポート（COM1またはCOM2）とルータのシリアルポートをシリアルケーブルで接続します。
2. ルータの電源を入れます。
3. サーバの電源を入れます。
4. ホストの端末または端末インタフェースプログラム（Windows 9x、NT 4.0、またはWindows 2000のHyperTerminal）を起動します。
5. 適切なCOMポートを使用するように、端末または端末インタフェースプログラムを設定します。
6. 表3-2に示すように、選択したCOMポートを設定します。
7. **Enter**キーを数回押します。ルータが、使用されているボーレート自動的に検出します。ボーレートは、電源を切っても保持されます。

注: このプロセスには、最大90秒かかります。電源投入時セルフテスト（POST）と初期化の情報が、画面に表示されない場合があります。

注: Autobaud機能を使用するには、端末エミュレーションプログラムのボーレートを9600、19200、38400、57600、または115200に設定する必要があります。

静電気対策

システムをセットアップしたり、部品を取り扱う場合には、システムの損傷を防止するために守らなければならないことがあるので注意してください。人間の指など、導電体からの静電気放電によって、システム ボードなどの静電気に弱いデバイスが損傷して、耐用年数が短くなることがあります。

静電気による損傷を防止するには、以下のことを守ってください。

- 運搬や保管の際は、静電気防止用のケースに入れ、手で直接触れることは避けます。
- 静電気に弱い部品は、静電気防止措置のなされている作業台に置くまでは、専用のケースに入れたままにしておきます。
- 部品をケースから取り出す前に、まずケースごとアースされている面に置きます。
- ピン、リード線、回路には触れないようにします。
- 静電気に弱い部品に触れなければならないときには、つねに自分の身体に対して適切なアースを行います。

アースの方法

アースにはいくつかの方法があります。静電気に弱い部品を取り扱うときには、以下のうち1つ以上の方法でアースを行ってください。

- すでにアースされているワークステーションまたはコンピュータ本体にアース バンドをつなぎます。アース バンドは柔軟な帯状のもので、アース コード内の抵抗は、 $1M \pm 10\%$ です。アースを正しく行うために、アース バンドを肌に密着させてください。
- 立って作業する場合、かかとやつま先にアース バンドをつけます。導電性または静電気が伝わる恐れのある床の場合、両足にアース バンドをつけます。
- 作業用具は導電性のものを使用します。
- 折りたたみ式の静電気防止マットがついた、携帯式の作業用具もあります。

上記のような、適切にアースを行うための器具がないときは、コンパック製品販売店またはコンパックのサービス窓口にお問い合わせください。

注: 静電気の詳細または製品のインストールの支援については、コンパック製品販売店またはコンパックのサービス窓口にお問い合わせください。

規定に関するご注意

ご使用になっている装置にVCCIマークが付いていましたら、次の説明文をお読み下さい。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCIマークが付いていない場合には、次の点にご注意下さい。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

規定準拠識別番号

規定に準拠していることの証明と識別のために、ご使用の製品には、コンパック固有のシリーズ番号が割り当てられています。このシリーズ番号は、必要な認可マークおよび情報とともに、製品ラベルに印刷されています。この製品の認可情報を請求する場合は、必ず、このシリーズ番号を参照してください。このシリーズ番号を、製品の製品名またはモデル番号と混同しないでください。

各国別勧告

以下に日本以外の国や地域での規定を掲載します。

Federal Communications Commission Notice

Part 15 of the Federal Communications Commission (FCC) Rules and Regulations has established Radio Frequency (RF) emission limits to provide an interference-free radio frequency spectrum. Many electronic devices, including computers, generate RF energy incidental to their intended function and are, therefore, covered by these rules. These rules place computers and related peripheral devices into two classes, A and B, depending upon their intended installation. Class A devices are those that may reasonably be expected to be installed in a business or commercial environment. Class B devices are those that may reasonably be expected to be installed in a residential environment (for example, personal computers). The FCC requires devices in both classes to bear a label indicating the interference potential of the device as well as additional operating instructions for the user.

The rating label on the device shows the classification (A or B) of the equipment. Class B devices have an FCC logo or FCC ID on the label. Class A devices do not have an FCC logo or FCC ID on the label. After the Class of the device is determined, refer to the corresponding statement in the following sections.

Class A Equipment

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference, in which case the user will be required to correct the interference at personal expense.

Class B Equipment

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit that is different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio or television technician for help.

Declaration of Conformity for Products Marked with the FCC Logo, United States Only

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

For questions regarding your product, contact us by mail or telephone:

- Compaq Computer Corporation
P. O. Box 692000, Mail Stop 530113
Houston, Texas 77269-2000
- 1-800-652-6672 (1-800-OK COMPAQ) (For continuous quality improvement, calls may be recorded or monitored.)

For questions regarding this FCC declaration, contact us by mail or telephone:

- Compaq Computer Corporation
P. O. Box 692000, Mail Stop 510101
Houston, Texas 77269-2000
- 1-281-514-3333

To identify this product, refer to the part, series, or model number found on the product.

Modifications

The FCC requires the user to be notified that any changes or modifications made to this device that are not expressly approved by Compaq Computer Corporation may void the user's authority to operate the equipment.

Cables

Connections to this device must be made with shielded cables with metallic RFI/EMI connector hoods in order to maintain compliance with FCC Rules and Regulations.

Power Cords

The power cord set included in your server meets the requirements for use in the country where you purchased your server. If you need to use this server in another country, you should purchase a power cord that is approved for use in that country.

The power cord must be rated for the product and for the voltage and current marked on the product's electrical ratings label. The voltage and current rating of the cord should be greater than the voltage and current rating marked on the product. In addition, the cross sectional area of the wire must be a minimum of 1.00 mm² or 18AWG, and the length of the cord must be between 6 feet (1.8 m) and 12 feet (3.6 m). If you have questions about the type of power cord to use, contact your Compaq authorized service provider.

A power cord should be routed so that it is not likely to be walked on or pinched by items placed upon it or against it. Particular attention should be paid to the plug, electrical outlet, and the point where the cord exits from the product.

Canadian Notice (Avis Canadien)

Class A Equipment

This Class A digital apparatus meets all requirements of the Canadian Interference-Causing Equipment Regulations.

Cet appareil numérique de la classe A respecte toutes les exigences du Règlement sur le matériel brouilleur du Canada.

Class B Equipment

This Class B digital apparatus meets all requirements of the Canadian Interference-Causing Equipment Regulations.

Cet appareil numérique de la classe B respecte toutes les exigences du Règlement sur le matériel brouilleur du Canada.

Mouse Compliance Statement

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

European Union Notice

Products with the CE Marking comply with both the EMC Directive (89/336/EEC) and the Low Voltage Directive (73/23/EEC) issued by the Commission of the European Community.

Compliance with these directives implies conformity to the following European Norms (the equivalent international standards are in parenthesis):

- EN55022 (CISPR 22) – Electromagnetic Interference
- EN55024 (IEC61000-4-2, 3, 4, 5, 6, 8, 11) – Electromagnetic Immunity
- EN61000-3-2 (IEC61000-3-2) – Power Line Harmonics
- EN61000-3-3 (IEC61000-3-3) – Power Line Flicker
- EN60950 (IEC950) – Product Safety

Taiwanese Notice

警告使用者：

這是甲類的資訊產品，在居住的環境中使用時，可能會造成射頻干擾，在這種情況下，使用者會被要求採取某些適當的對策。

レーザー装置

レーザー装置を搭載したコンパックのシステム製品はすべて、IEC 825等の安全基準に適合しています。またこれらの装置は、米国政府の定めるClass 1のレーザー装置基準に適合しており、通常の使用では人体に有害なレーザー光線を装置外部に放射することはありません。

レーザーの安全に関するご注意



警告: 火災や人体への傷害、装置の損傷を防ぐために、次の注意事項に従ってください。

- レーザー装置のカバーを開けないでください。ユーザが修理できるコンポーネントはありません。
 - 一般のユーザが、レーザー装置に対してこのガイドに記載された以外の修理、調整等は絶対にしないでください。
 - 内蔵レーザー装置の保守や修理は、必ず、コンパックのサービス窓口にご依頼ください。
-

CDRH規定

米国食品医薬局CDRH (Center for Devices and Radiological Health) のレーザー製品に関する規定 (1976年8月2日施行) は1976年8月1日以降に製造されたレーザー製品に適用されます。米国内で販売されるすべての製品がこの規定に適合しなければなりません。

国際規定

CD-ROMドライブを搭載したコンパックのシステム製品はすべて、IEC 825等の安全基準に適合しています。

レーザー製品ラベル

以下のラベルまたはそれに類似するものが、コンパクの提供するレーザー装置に貼付されています。



このラベルを貼付した製品は、Class1レーザー装置として分類されます。左のラベルが製品の外側と内蔵レーザー製品の外側に貼付されています。

レーザー部

表B-1: レーザ部

機能	説明
種別	半導体 (GaAlAs) レーザ
波長	780nm±35nm
ビーム分散角	53.5±0.5°
出力	0.2mW/10,869Wm ⁻² sr ⁻¹ 未満
偏光	環状0.25
レンズ口径	0.45 ± 0.04インチ

索引

A

Autobaud機能
設定 3-9

C

Cables B-3
Canadian Notice (Avis
Canadien) B-4
CDRH規定 B-6
Class A Equipment B-2、B-4
Class B Equipment B-2、B-4

E

Ethernetインタフェース 3-8
Ethernetポート
LEDインジケータ 1-4
位置 1-4
European Union Notice B-5

F

Federal Communications
Commission Notice B-2

L

LEDインジケータ
Ethernetポート 1-4
SCSIバス 1-3
ファイバチャネルポート
1-3

M

Modifications B-3
Mouse Compliance
Statement B-5

P

Power Cords B-4

S

SCSI接続 3-6
SCSIバス
LEDインジケータ 1-3

T

Taiwanese Notice B-5

W

WWN/MAC IDラベル、図 3-4

あ

アース付きプラグ

警告 3-2

アースの方法 A-2

アービトラテッド（またはブ
ライベート）ループを使用
したテープライブラリが存
在する構成、図 3-5

い

インタフェース

接続、種類 3-3

う

内側レールと外側レールの取り

外し、図 2-4

か

開梱、ルータ 2-2

外部機能、概要 1-2

各国別勧告 B-1

き

キー情報

ラベル 3-4

規定準拠識別番号 B-1

け

警告

アース付きプラグ 3-2

こ

国際規定 B-6

コンパックのWebサイト x

し

シリアルポート

位置 1-4

接続 3-8

通信、設定 3-9

せ

静電気対策 A-1

接続

SCSI 3-6

シリアルポート 3-8

電源コード 3-2

ファイバチャネル 3-4

設置

ルータ、デスクトップ 2-2

ルータ、ラック 2-3

そ

装置の記号 vii

外付SFP 3-5

て

デスクトップ

設置、ルータ 2-2

電源インジケータ 1-3

電源コード

接続 3-2

は

背面のポートの位置、図 3-3

ひ

表記上の規則 x

ふ

ファイバ チャンネル
LEDインジケータ 1-3
接続 3-4
ブラケットの取り付け面とラックを揃える、図 2-5

へ

ベゼル ブランク
取り付け 2-8

ほ

本文中の記号 ix

ら

ラック
設置 2-3
ブラケットの取り付け面、
図 2-5
ラックに関する注意 ix

る

ルータ
SCSIデバイス、接続 3-7
設置、デスクトップ 2-2
ファイバチャンネルスト
レージ エリア ネット
ワーク、接続 3-6
ルータ、図 1-2
ルータの設置場所 2-2
ルータへの内側レールの取り付け、
図 2-6

れ

レーザ製品ラベル B-7
レーザ装置 B-6
レーザの安全に関するご注意 B-6
レーザ部 B-7